



『人と防災未来センター・JICA 関西 訪問』

夏休みを目前に控えた 7 月 15 日、GLiS 類型では、地域や世界が抱える課題について学ぶ校外学習を実施しました。今回は「人と防災未来センター」と「JICA 関西」を訪問し、防災と国際協力という 2 つのテーマについて、実際の展示や体験、講話などを通して学びを深めました。

はじめに訪問した「人と防災未来センター」では、阪神・淡路大震災の経験や教訓について学びました。震災当時の様子を伝える展示や資料を見学するとともに、災害の発生によって人々の生活にどのような影響が生じるのか、防災・減災のためにどのような仕組みや備えが必要なのかについて考えました。また、実際に体験しながら学ぶことのできる展示もあり、生徒たちは災害をより身近な問題として捉えることができました。



次に訪問した「JICA 関西」では、JICA が行っている国際協力の活動や、海外協力隊の仕事について学びました。世界には、教育や医療、生活環境など、さまざまな課題を抱えている地域があることを知り、それらの課題に対してどのような国際協力が行われているのかについて理解を深めました。実際の仕事に関わるお話を聞くことで、国際協力が決して遠い世界の出来事ではなく、多くの人々の活動によって支えられていることを知る機会にもなりました。



今回の訪問を通して、生徒たちは防災や国際協力についての知識を得るだけでなく、「自分たちの暮らす地域で起きたこと」と「世界で起きていること」の両方に目を向けることができました。普段の生活ではなかなか意識することのない課題も、実際の資料を見たり、体験したり、現場で働く方のお話を聞いたりすることで、少し違った見え方をしたのではないのでしょうか。

探究活動のスタートは、必ずしも大きなテーマや立派な答えから始まるものではありません。「もっと知りたい」「これはなぜだろう」「自分ならどうするだろう」という小さな疑問が、次の学びにつながっていきます。今回の経験で生まれた一人ひとりの気付きが、これからの GLiS でどのような「問い」に変わっていくのか。夏休み明けの探究活動にも、今回の学びが生かされていくことを楽しみにしています。

『ふれあいまつり GLiS ブース出展！』

7 月 18 日(土)、瑞穂小学校で開催された「瑞穂小学校区ふれあいまつり」に、GLiS 類型の生徒たちがブースを出展しました。今回のブースでは、6 月の県伊祭(文化祭)で実施した「サーモスライム作り」をさらに改良し、地域の小学生の皆さんに科学の面白さを体験してもらいました。



サーモスライムは、温度の変化によって色が変わるスライムです。県伊祭での実施を通して見つかった課題を振り返り、今回は「より多くの子供たちに、楽しく、スムーズに体験してもらうにはどうすればよいか」を考えながら準備を進めました。材料の準備方法やブースの配置、説明の仕方など、前回の経験を生かして運営方法を工夫しました。

当初は 70 名程度の参加を目標としていましたが、当日は予想を大きく上回る大盛況となり、なんと 100 名を超える子どもたちが GLiS のブースを訪れてくれました。会場では、色の変化に驚いたり、自分で作ったスライムを楽しそうに触ったりする子どもたちの姿が多く見られ、生徒たちも積極的に声をかけながら、科学の面白さを伝えていました。

また、今回の活動でいただいたお金から、参加費と必要経費を差し引いた 6,910 円を、全額チャイルドスポンサーシップ募金へ寄付することとなりました。自分たちが企画・運営した活動を楽しんでもらうだけでなく、その活動を通して誰かのために役立てることができたことも、生徒たちにとって大きな意味を持つ経験となりました。

県伊祭での経験を振り返り、課題を見つけ、工夫を加えてもう一度実践する。今回の活動では、前回の反省を生かして運営方法を改善したことで、目標を大きく上回る 100 名以上の子どもたちに科学の楽しさを届けることができました。うまくいったことだけでなく、「もっとこうすればよかった」と感じたことも含め、実際に行動したからこそ得られた気付きがたくさんあったのではないのでしょうか。

そして、自分たちが考え、準備し、実践した活動が、多くの子どもたちの笑顔につながり、さらにその収益を寄付という形で誰かのために役立てることができました。こうした経験の一つひとつが、GLiS で学ぶ「探究」をより身近なものにしてくれます。今回の活動に関わった皆さんには、ぜひ「楽しかった」で終わらせるのではなく、何が成功につながったのか、次は何を変えられるのかを振り返り、次の活動への新たなアイデアにつなげてほしいと思います。今回の機会を支えてくださった皆様にも感謝しながら、これからも GLiS らしい挑戦を続けていきましょう。

『文化財イベント お疲れさまでした！』 “伊丹市文化財ボランティアの会”さんと共催!!

7月30日(木)、GLiS 特別プログラム「夏のタベ文化財巡り」を無事に終えることができました。5月から準備を始め、1年生40名、2年生16名でアイデアを出し合いながら、約3か月かけてこの日を迎えました。

当日は、旧岡田家住宅での狐のお面づくりからスタート。3つのグループに分かれて文化財を巡り、それぞれの場所でクイズや劇を披露しました。参加者に楽しんでもらおうと、声のかけ方や説明の仕方を工夫したり、参加者の様子を見ながら臨機応変に対応したりするなど、皆さんが一生懸命に動いている姿が印象的でした。

準備では、なかなか意見がまとまらなかったり、考えたことを実際の形にする難しさに悩んだりすることもありました。それでも、1年生と2年生が互いに声を掛け合い、何度も話し合い、修正を重ねてきました。本番では、それぞれが自分の役割をしっかりと果たし、最後までやり切ることができました。

自分たちで考えたことを、実際に人に届けるところまでやり切った今回の経験は、皆さんにとって大きな一歩だったと思います。うまくいったことも、反省することも、すべて次の活動につながります。約3か月間、本当によく頑張りました！



『サイエンスイベント お疲れさまでした！』 “里親支援センター ウェルころ”さんと共催!!

8月22日(土)、GLiS 特別プログラム「真夏の大研究！～高校生と一緒に『最高の思い出』を作る日～」を実施しました。5月から準備を始め1年生40名、2年生12名が協力しながら、約3か月かけてこの日のために準備を進めてきました。

今回のテーマは「小学生に科学の面白さをどう伝えるか」。実験を繰り返したり、説明の仕方を考えたり、「これなら楽しんでもらえる！」と思ったアイデアを実際に試してみたりと、試行錯誤の連続でした。うまくいかずに何度もやり直すこともありましたが、そのたびに意見を出し合い、少しずつ企画を完成させていきました。

当日は、GLiSの5ブースに加え、科学研究部の2ブースも加わり、7つの科学体験を用意しました。7つの忍術に見立てたブースを巡り、シールを集める仕組みにしたことで、たくさんの小学生が次々と体験に参加してくれました。生徒たちも、実験の説明をしたり、困っている子に声をかけたりしながら、一緒に楽しむ姿が見られました。

準備してきたことが本番でうまくいった瞬間もあれば、「もっとこうすればよかった」と感じた場面もあったと思います。それでも、考えて、試して、直して、そして実際に人に届けるところまでやり切ったことに大きな意味があります。

「科学を教える」のではなく、「科学っておもしろい！」と思ってもらう。そのために皆さんが悩み、工夫し、最後まで頑張った3か月でした。本当にお疲れさまでした！



「この夏の経験を、次の一歩へ」

この夏、GLiSではさまざまな活動に取り組みました。防災や国際協力について実際に見て、聞いて、体験したこと。地域の方や小学生と関わりながら、自分たちで考えた企画を実現したこと。どの活動にも、それぞれ違った学びがありました。そして何より、皆さんが「どうすればもっと良くなるだろう」と考え、仲間と意見を出し合い、試行錯誤しながら活動する姿を見ることができました。

もちろん、すべてが最初からうまくいったわけではありません。思うように進まなかったり、意見がまとまらなかったり、本番になって初めて気付いたこともあったと思います。しかし、そうした経験こそが、GLiSで大切にしている「探究」の学びにつながっています。考えて、やってみて、振り返り、また考える。この繰り返しの中で、一人ひとりの力が少しずつ身についてきています。

2学期も、2回目のオープンハイスクールでの活動やスターウォッチングをはじめ、さまざまなイベントや探究活動が待っています。1学期から夏休みにかけて得た経験を、そのまま終わらせるのではなく、「次は何ができるだろう？」という新しい問いにつなげていきましょう。

2学期は、皆さんの「やってみたい」を、さらに一歩先へ。夏の経験を力に変えて、また新しい挑戦を始めましょう。